



明峰

令和8年2月12日
第26号
校長 岡野利男

今号の作成に当たっては、国土交通省九州地方整備局の丸山寛起様と田中祐一様に多大なるご協力をいただきました。ありがとうございました。



明峰校区の魅力を探る その② 本明川ダム

第24号でお伝えしていたとおり、校区の魅力シリーズその②は、本明川ダムについて。まずは、この写真をじっくりとごらんいただき、諫早の地形、そして本明川の流れをご確認ください。



幹川流路延長	28km
流域面積	249km ²
流域	諫早市、雲仙市
流域内人口	約8万7千人

資料提供 国土交通省九州地方整備局

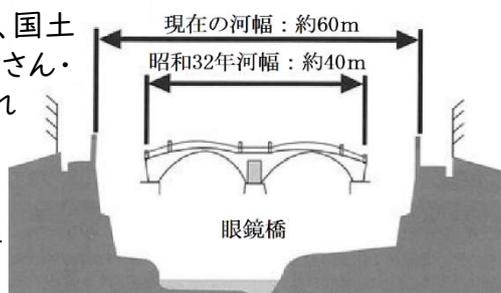
- ◇明峰中を確認してください。さらに、諫早駅を確認してください。それで、おおよその位置関係を把握できるはずですよ。
- ◇公園堰(山下淵)はわかりますか。「割烹すみれ」さんの近くで川の水を受け止める堰です。
- ◇そして、写真左奥。今号の主役“本明川ダム”の計画位置はお分かりでしょうか。

それでは準備が整ったところで、まずは第24号のおさらいです。そもそも本明川は、

- ・勾配(川が流れる角度)が急であること。
- ・勾配が緩くなる地点に市街地が形成されており、水がたまりやすいこと。

そのため、水害を起こしやすい川でした。特に、昭和32年に死者・行方不明者630人の被害となった諫早大水害は誰もが知るところです。現在の河幅は、昭和32年大水害の後、下図のとおり当時の1.5倍に改修されています。

しかしながら、国土交通省の丸山さん・田中さんによれば、「再度、昭和32年諫早大水害級の大雨が降れば、



1.5倍と改修された現在の河幅をもってしても、なお氾濫は防げない」とのこと。しかも、氾濫の危険性が高い地域の中に明峰中校区が含まれるとのことでした。

本明川ダム建設の目的は2つ。その内の1つは、まさに、大雨の際に川の水を一時的に貯めて町を洪水から守るため=洪水調節ということです。これは、皆さん納得ですよ。

それでは、もう1つの目的は…。それは、川の生き物や植物の生息環境を守るためとのこと。本明川に生息する様々な命にとっての適切な環境をイメージするならば、丸山さん曰く「公園堰(山下淵)から水がおだやかに溢れているような状態」ということ。



公園堰(山下淵) 岡野撮影

右の写真から分かる通り、雨が降っていない平常時、公園堰から水は溢れていません。先述の“望ましいイメージ”とは違います。つまり、諫早の顔である「本明川」は、“普段はもう少し流れがほしい川”なのだが、“大雨時には氾濫を起こしやすい川”という両極性を持つのです。

私が学校だよりに「本明川ダム」を紹介したいと考えたきっかけは、昨年9月、先に紹介した国土交通省丸山様の話に触れ、胸を打たれたことでした。「本明川ダム建設事業において、先祖代々の土地を提供いただいた本野小学校区域の方々とその子孫である生徒さん、昭和32年諫早大水害において、駅前(栄田町、永昌町等)で、約110名の方が亡くなり、今も水害の危険性が残る御館山小学校区域に住む生徒さんが在籍する明峰中学校に、諫早市内のどの学校よりも先に本明川ダムのことを知ってほしいと思います。」とても深い言葉です。そして、ダム建設の裏には、住み慣れた家、愛する田畑の水没に直面する方がいる事実を忘れてはなりません。(裏に続く。)

次の年表は、本明川ダムの事業経緯です。

平成 2年	4月	実施計画調査開始	ア
平成 6年	4月	建設事業着手	
平成12年	12月	本明川水系河川整備基本方針の策定	
平成17年	3月	本明川水系河川整備計画の策定	
平成25年	8月	「新規利水を除いて継続」の方針決定	イ
平成29年	2月	本明川ダム損失補償基準協定書調印	ウ
平成30年	2月	本明川ダム関連付替道路着工式	
令和 3年	3月	法に基づく水源地域整備計画の決定	
令和 5年	3月	本明川ダム関連付替県道開通	
令和 6年	7月	本明川ダム本体建設（一期）工事 契約	
令和 6年	11月	本明川ダム関連付替市道開通	
令和 6年	12月	本明川ダム工事用道路供用	
令和 7年	2月	本明川ダム本体工事着工式	

年表中ア～ウの3つについて少し説明を。

ア ダム建設の調査が始まったのは36年も前（平成2年）であり、どこにダムを建設するかが決まったのは31年前（平成6年）のことです。情けない話ですが、平成2年4月は、私が明峰に教諭として赴任した時、平成6年3月は明峰を離任した時。これらの動き、全く知りませんでした…。

イ 「新規利水を除いて継続」…これは、本明川ダムの水は、長崎市を含む4市町へも供給する予定であったとのこと。しかし、これが取り消されたということを示したものです。

ウ この協定で、明渡しの合意が得られ、水没地域の方々の移転が始まったということ。

丸山さん、田中さんの説明で「**ダム本体工事は始まったばかりですが、ダム工事自体はもう終盤なのですよ。**」という言葉がありました。計画開始から35年余り。年表から、最初の30年は、丁寧に調査・計画・説明がなされていることが分かります。「**長年、住んでいた家が沈む。田畑が沈む。ダム建設は地元の人々の理解がないとできないこと。本体工事のみならず、周辺環境をいかに整えるかがとても大切です。**」とのお話が心に残っています。

さて、終盤となったダム工事ですが、ダム本体工事が昨年始まり、令和14年完成の予定。下の資料は、ダム完成イメージ図です。



資料提供 国土交通省九州地方整備局

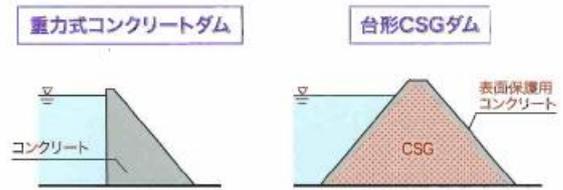
丸山さん田中さんから、ダム本体に関する情報をたくさん聞いたのですが、学校だよりでは3つに限定します。「校区内でダム建設が行われている」という希少な事実。できれば、ご家族で一度見学に。

①本明川ダム本体の大きさは、『明峰中校舎』が縦に4つ×横に3つ=12個分の大きさです!!

左下の【イメージ図】で、Aと示したダムの堤体部分のことです。高さ60m、横の長さ340m。なお、Bの部分に貯められる水の量は620万m³とのこと、明峰中プールの10,300杯分です。

②九州初のCSG (Cemented Sand and Gravel) ダムです!! *セメントで固めた砂と礫のダム

下の図はダムの断面図。日本のダムの多くは、左側の【重力式コンクリートダム】ですが、本明川ダムは、右側のCSGダムだそうです。



資料提供 国土交通省九州地方局

しかし、本明川ダムでは重力式コンクリートダムではなく、セメントで固めた砂と砂礫からなる台形CSGダムになるとのこと。現地材料採取することで環境負荷軽減やコスト削減を図るそうです。左下【イメージ図】で、Cと示された場所。これが母材山となるそうです。つまり、この場所から取り出された砂や礫、岩がダムの材料となる。これにセメントを加えたものがCSGダムということ。上の断面図で分かる通り、台形の形状ですね。

③まもなくやって来ます「ダンプトラック」!!

②で述べた母材山からダム本体まで材料を運ぶには、写真の大型ダンプ(32トンダンプ)で運ばないと莫大な労力・



時間を要するとのこと。そこで、まもなく、この32トンダンプが工事現場を走り回る光景が見られるそうです。なんと、燃費は1リッター300mとか…。

ちなみにこのダンプ、一般公道は通れません。(法規制で20トンダンプまでしか無理とのこと。)だから、分解されて運ばれた各部分が、現地で組み立てられるとのこと…。スケールが違いますね。

ダム工事の見学、価値ある学びとなりそうです。